

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年版、名古屋中核圏都市圏環境性能評価システムマニュアル2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知県営平針住宅PFI方式整備等事業 9-D棟	階数	地上9F、地下1F
建設地	名古屋市天白区平針南三丁目201番の一部	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	254 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,260 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年1月20日
敷地面積	5,639 m ²	作成者	
建築面積	652 m ²	確認日	2022年1月20日
延床面積	4,847 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE3.0

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% :30%

標準計算

- ①参照値 100%
- ②建築物の取組み 77%
- ③上記+②以外の 77%
- ④上記+ 77%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		その他
総合 地域の優れた自然環境や景観資源を活かした、緑豊かで潤いのある住環境を形成する。また、高い外皮性能を計画し省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。		県営平針住宅の建て替えにあわせ、土地の合理的かつ健全な高度利用を図り、周辺の良好な低層住宅地の環境と調和のとれた緑豊かで潤いのある都市居住環境の形成を目指すために地区計画が定められている。本敷地は、公園・緑道・緑地の配置、建蔽率の制限、壁面の位置の制限、建築物の高さ制限、建築物の形態及び意匠の制限を受けている。
Q1 室内環境 外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級等級4を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。	Q2 サービス性能 躯体の耐用年数として、日本住宅性能表示基準による劣化等級3を満たす計画とし、耐用年数向上を計る計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) でこぼこ山の南側に公園を設け、積極的に緑化を施すことで地表温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー LED照明等、高効率設備を採用することで省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

愛知県営平針住宅PFI方式整備等事業 9-D棟

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.3
LR1	エネルギー	4.4	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				4.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				4.0
LR2.1	水資源保護	3.6	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.3	
2. 自然共生	評価点 = 4.1	
3. 循環型社会	評価点 = 4.0	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。